

## 外国語授業でのiPhoneとiPadの利用

田川 光照（愛知大学経営学部）

### 要旨

スマートフォンやタブレット端末は、ノートパソコン以上の携帯性を備えると同時に、とくにコンテンツ閲覧についてはそれを超える利便性を備えている。筆者は、iPhoneとiPadをBluetooth対応のスピーカーおよびプロジェクターと組み合わせて外国語（フランス語および韓国・朝鮮語）の授業を行なっている。モバイル端末を使うことで、機動的な授業を行なうことができ、今後、語学用の教室の機器が整備される場合には、Wi-FiやBluetoothによる無線化に対応させることを提案する。

キーワード：iPhone, iPad, 外国語授業, ポッドキャスト, 音声教材, 視聴覚教材, 再生機器の変遷と多様化

### 1. はじめに

iPhoneをはじめとするスマートフォンおよびiPadをはじめとするタブレット端末が急速に普及している。それらは、超小型携帯パソコンと言ってよい機能を備えており、長文の文章を書くなどのコンテンツ作成には適さない面があるものの、少なくともコンテンツの閲覧においては、パソコンをはるかに凌駕する便利な情報端末であると言える。

筆者にとって、iPhoneとiPadはなくてはならない道具となっている。私的な利用や研究上の利用だけでなく、それら端末を授業でも使っている。現在、フランス語および韓国・朝鮮語の授業を担当しているが、それらの授業にお

いて、iPhone, iPad, プロジェクター, Bluetooth対応のモバイルスピーカーを組み合わせて使っているのである。以下、それらをどのように使っているかを紹介したい。一般教室（LL教室以外の教室）での外国語授業におけるモバイル端末の利用法や今後の教室設備について参考になれば幸いである。

### 2. 音声はiPhoneで

2001年にApple社から初代iPodが発売された時、すぐに購入した。当初はそれを授業で使うことは考えていなかったのであるが、間もなく、フランス語の教科書に付属しているCD音源をiPodに入れ、教卓の外部入力端子に接続して、教

室のスピーカーから音を流すという使い方をはじめた。また、ディクテーションは、CD音源をパソコンで編集したものをiPodに入れて行なうようにした。

当時、授業で音声教材を使う場合、授業用に教科書会社が用意しているカセットテープを使うのが普通であった（現在でも用意されている）。CDは特定のトラックの頭出しは簡単にできるものの、そのトラックの中の一部だけを再生したい場合は不便で、その点、カセットテープのほうが融通がきき、使いやすいのである。ただし、カセットテープの場合は、頭出しの点でCDよりも使い勝手が劣る。それに対して、iPodはそれら両者の長所を合わせもっている。

そして、2008年にiPhoneが登場し、それを購入してからはiPodからiPhoneに切り替えた（本稿執筆時点ではiPhone4を使用）。その使い方はiPodの場合と同様である。再生したいトラックを選択し、そのトラックの一部を再生したい場合には、画面上部のスライダーを指で動かすことで再生位置を決めることができる（写真1参照）。なお、トラックの選択はCDプレーヤーよりもさらに簡単である。

今年（2012年）の3月下旬、新名古屋校舎の語学用教室を見に来て愕然とした。校舎建設工事が2期に分けられたために、教室不足を補う必要から語学用教室は100人教室を二つに分割したもので

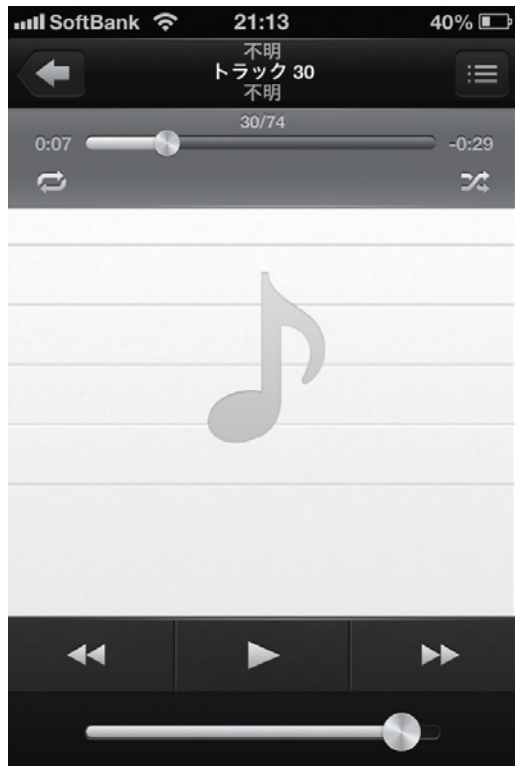


写真1 iPhoneのスクリーンショット

あるから、十分な設備が備えられていないことは分かっていた。しかし、少なくともスピーカーと外部入力端子くらいは備えられているだろうと勝手に思っていたのである。それさえあれば、音声についてはどのような再生機器にも対応できる。それさえもないと分かった時、30年以上前の教室を思い出した。

その対応策として考えたのが、Bluetooth対応のモバイルスピーカーを使ったかどうかということであった。昨年度までは、外部入力端子に接続して使っていたため、再生する時には、教卓にへばりついていなければならなかつ

た。iPhoneのBluetoothをONにして、そのモバイルスピーカーから音を出すようにすれば、教室内のどこからでも、学生の机の間を動き回りながらでも、ポケットからiPhoneを取り出して再生できると考えたのである。

使いやすそうなものを探した結果、サンワサプライのBluetoothスピーカー（品番：400-SP021）を購入した。これを選んだ理由は、安価（6000円弱）であること、充電式バッテリーを内蔵していること、幅163ミリ、直径42ミリの円筒形で重さは170グラムと小型軽量であること、そして円筒形であるため、教室のホワイトボードのマーカー受けにすっぽりと置くことができることにある（写真2参照）。最大出力が4W（2W+2W）であ

るため、音量に不安があったが、実際に使ってみると、語学用教室の広さでは問題なかった。

そのような訳で、今年の4月からは音声についてはiPhoneとBluetoothスピーカーを組み合わせて使っている。教室のどこにいても再生できるのは、実に便利である。なお、iPhoneは携帯電話でもあるから、授業中に電話がかかってくるのは困る。そこで、「飛行機モード」をONにして電話をシャットアウトしたうえで、BluetoothをONにして使っている。学生には授業中に携帯電話やスマートフォンを操作することを禁じている手前、最初の授業でそのことを説明するようにした。

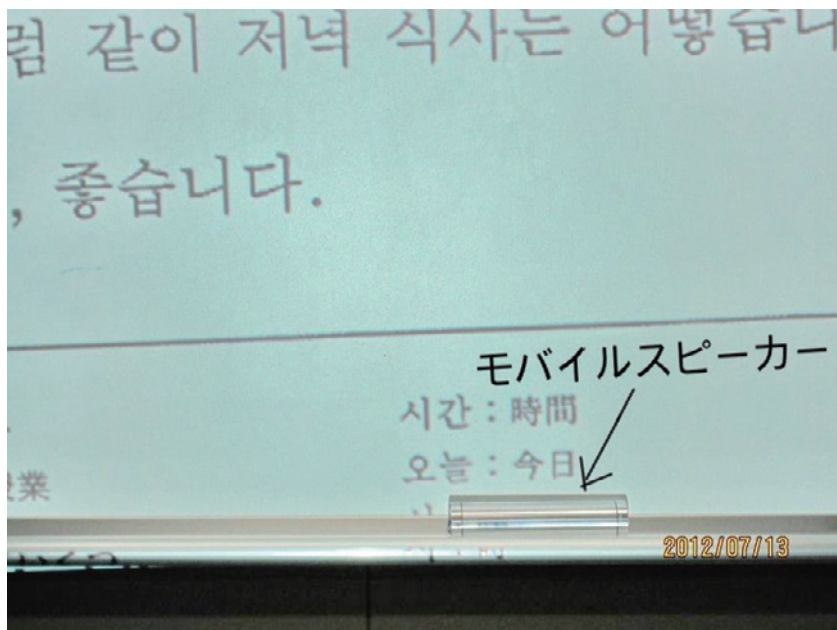


写真2 ホワイトボードのマーカー受けに置いたモバイルスピーカー

### 3. 文法等の説明はiPadとプロジェクターで

iPadとプロジェクターを組み合わせる授業を行なうことは、教室の仕様に関係なく、昨年(2011年)の年末頃から考えていた。それまで初代のiPadを持っていたが、iPad2を購入したことがその契機である。なぜ、それが契機になったかと言えば、iPad2がミラーリング機能を備えているからである。プロジェクターに接続すればiPad2の画面をそのまま投写できるのであるから、授業の様々な場面で臨機応変に利用できるであろうと思っ

たのである。

初めは、iPad2のみをプロジェクターと組み合わせて使うことを考えていた。しかし、プレゼン用アプリや手書きアプリなど、授業で使えるようなアプリをいくつもダウンロードして使い勝手を試しているうちに、iPad2とプロジェクターの組み合わせに初代iPadも加えて使うことにした。アプリの中に、Wi-FiまたはBluetoothを使って、複数の端末間で同期を行なうプレゼン用あるいは電子会議用アプリがあることに気づいたからである。その種のをいくつか試してみた結果、EBooklet2Pro<sup>1)</sup>というアプリを使

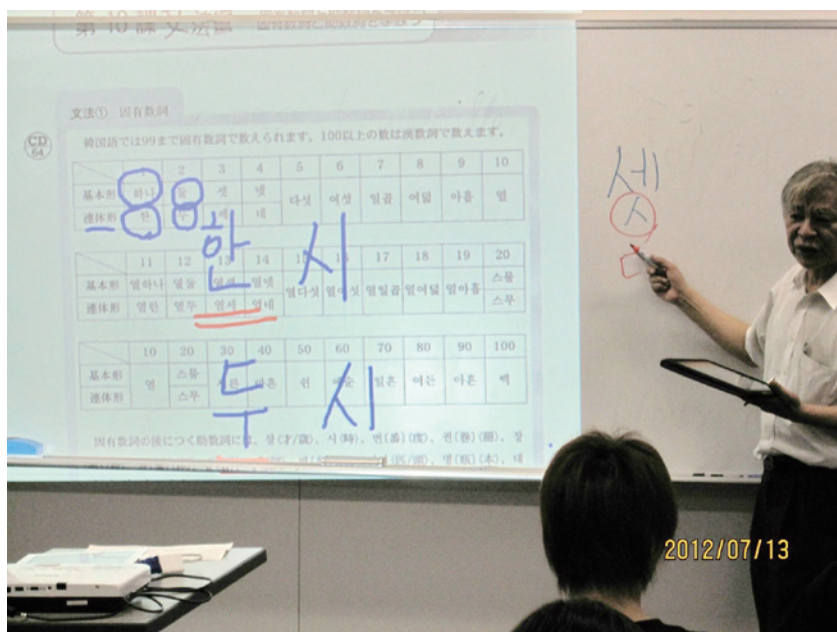


写真3 左下の教卓の上にあるのがプロジェクターで、この写真では分からないが、その向こう側にプロジェクターに接続したiPad2が置かれている。手にしているのが初代iPadで、胸のポケットにiPhoneが入っている。投写面の書き込みは、手にしているiPad上でスタイラスペンを用いて書いたもの。

うことにした。

このアプリをそれぞれの端末にインストールし、それぞれで同じPDFファイルを開けば、一つの端末での操作、すなわち、PDFファイルのページ繰り、拡大、手書きによる書き込みなどの操作が他の端末に直ちに反映されるのである。そこで、ミラーリング機能を持つiPad2をプロジェクターに繋いで、ホワイトボードに投写し、操作はBluetoothを使って初代iPad側で行なうことにした。そうすることで、PDFファイルの操作が教室のどこからでも行なえ、プロジェクターに繋いだiPad2の傍にいる必要がない。教室の中を動きながらでも操作でき、必要な時にはポケットからiPhoneを取り出して音声を流すこともできるという、機動的な授業ができる（写真3参照）。

では、具体的にEbooklet2Proをどのように使っているかを、簡単に紹介したい。パソコンとドキュメントスキャナーを使って教科書をPDFファイル化し、初代iPadとiPad2のEbooklet2Proに取り込む。そして、教科書の例文などについての説明を初代iPad上で手書きしながら行なうというのが、主たる使い方である。iPad2とプロジェクターを通して、その画面がホワイトボードに映し出されるため、学生にとってどこの説明をしているのか分かりやすくなるとともに、説明のために教科書の例文をホワイトボードに書き写す必要がないという利点があ

る。また、専用スクリーンではなくホワイトボードに投写することで、その投写面上に直接マーカーで書き込むこともでき、また、投写面の両サイドを有効に使うこともできる。

ところで、iPad2をプロジェクターに繋ぐことで、EBooklet2Pro以外のアプリを使って補助教材を提示したい場合、それをミラーリングで投写することができるという利点がある。たとえば、フランス語の教科書にエッフェル塔やルーヴル美術館が出てきた時には、iPad2（学内無線LANに登録してある）で地図アプリを使ってそれらの位置を示すとともに、インストールしてあるパリ写真集のアプリ（Fotopedia<sup>2)</sup>）でそれらの写真を見せた。また、別の場面ではYouTubeの動画を見せたこともある。これらの場合は、初代iPadを使って教室のどこからでも遠隔操作できるという訳にはいかないが、たまにしかやらないことなので不便はない。

なお、教室のどこからでも操作できるようにするため、上記のごとく2台のiPadを使っているが、実は、同様のことを1台だけで行なうことのできるシンプルなやり方がある。筆者が使っている、本学名古屋校舎講師控室に備えられているプロジェクターは、エプソンのEB-1760Wである。このプロジェクターは、オプションで無線LANに対応しており、無線LANユニットを装



着し、エプソンが無料で配布しているiProjection<sup>3)</sup>を端末にインストールすれば、PDFファイルだけでなく、Word文書や、WebページなどもWi-Fiを使って無線でプロジェクターに送ることができる。しかも、EBooklet2Proと同様のマーカー機能を備えており、端末上での書き込みも投写される仕様になっている。EBooklet2Proの場合はPDFファイルしか扱えないのに比べて、扱えるファイルの種類が多いことも魅力である。そこで、その無線LANユニットを購入して欲しいという要望を教務課に出したのであるが、この原稿を書いている時点ではまだ未入荷で、試すことができずにいる。

最後に、DVDを見せる場合には、どうしてもDVDプレーヤーなり、DVDを再生できるノートパソコンなりが必要になる。ただ、研究室のパソコンにDVDをセットして、ストリーミングで流してiPhoneなりiPadで受信するということが可能ではある。とはいえ、著作権保護がなされたDVDの場合はまともにストリーミングされない。できたとしても違法になる可能性があるうえ面倒でもあり、現実的ではないかもしれない。

#### 4. 副教材と再生機器の変遷・多様化

外国語学習・授業のための音声教材は、おおまかに言えば、レコードやオー

ブンリールの録音テープから、1970年代にはカセットテープに移行し、1990年代になるとCDが主流になった。カセットテープ時代は、授業用のカセットが教科書会社によって無料で用意されていたが、学生に対しては別売で、値段も教科書本体より高いくらいであった。したがって、学生がカセットを購入することはほとんどなかったはずである。CDへの移行によって、教科書にCDが付属するようになったが<sup>4)</sup>、授業用の無料カセットテープは、現在まで存続し続けている。

最近になると、まだCDが主流の座を占めつつも、ポッドキャストなどによる配信も行なわれるようになってきている。音楽ソフトがCDからネット配信に移行してきていることから、遠くない将来、語学用についてもCDによる音源配布は脇役になると思われる。再生機器を見ても、一般的にはMP3プレーヤーやスマートフォンが主流になっていると言ってよいであろう。

また、視聴覚教材について見れば、スライド写真と録音テープの組み合わせから1970年代末頃になるとビデオテープへの移行がはじまり、ビデオテープ全盛時代を経て2000年代に入るとDVDが主流になった。さらに現在では、音声教材ほどではないにしても、ポッドキャストなどでの配信も行なわれはじめた<sup>5)</sup>。MP3プレーヤーの中には、動画の再生ができ

るものも登場しているほか、スマートフォンやタブレット端末でも再生できることを考えると、ポッドキャストなどによる配信が次第に増えていくのではないかと思われる。

さらに、インターネット上には、教材となりうる素材が豊富にあり、場合によっては、授業の中でそれらを利用できる。たとえば、KBSなど韓国のテレビ局のホームページには、テレビニュースのクリップがスクリプト付きで置かれている<sup>6)</sup>。

以上のように、音声教材および視聴覚教材のメディアの変化、そして教材として利用しうる素材の多様化が進む中で、また、再生機器の変化と多様化が進む中で、今後はそれらに対応する教室設備を考える必要がある。とくにスマートフォンやタブレット端末といったモバイル端末にも対応できるようにしてもらいたいと思っている。スピーカー、DVDプレーヤー、大型液晶モニターまたはプロジェクター（筆者は後者でホワイトボードに投写するのがよいと思っている）を基本とし<sup>7)</sup>、外部入力端子を備えるだけでなく、Wi-FiやBluetoothによる無線化に対応することである。それによってモバイル端末を使った機動的な授業ができるようになる。

## 5. おわりに

タブレット端末はそれほどでないにしても、スマートフォンを持っている学生は随分増えた。教員の端末とそれらをWi-Fiで結ぶことで、教員と学生の双方向の授業を行なえる可能性もないではない。しかし、仮に全員が持っていたとしても、iPhoneを持っている学生もいれば、Android系のスマートフォンを持っている学生もいる。それらの間に完全な互換性がない限り難しいと思われる。さらに、現実的な問題として、授業中に端末を使ってゲームなどをしていても、それをチェックすることが難しいという側面もある。このことは、タブレット端末についても同じことが言える。したがって、少なくとも現在のところ、授業でのスマートフォンやタブレット端末の利用は、筆者のような使い方に限らざるをえないであろう。

## 注

- 1) このアプリについての詳細は、開発元の日本インフォメーションのホームページ <http://www.nicnet.co.jp/system/ebooklet.html> を参照されたい。
- 2) 開発元はFotonauts Inc.で、Fotopediaのシリーズは、パリ写真集のほか、世界遺産写真集、モロッコ写真集、北朝鮮写真集などいくつもの写真集を無料で提供している。<http://www.fotopedia.com/> を参照。

- 3) このアプリについての詳細はエプソンのホームページ <http://www.epson.jp/products/offirio/emp/ipj/> を参照されたい。なお、このアプリがミラーリングに対応すれば申し分ないが、残念ながらそれには対応していない。
- 4) 1970年代末頃まで、ソノシートを付録につけた教科書が存在した。
- 5) たとえば、朝日出版社の教科書『話してみようフランス語—Oui;-)』には授業用DVDが用意されているが、そのDVDに収録されているビデオはポッドキャストでも提供されており、学生も利用できるようになっている。
- 6) 昨年度（2011年度）の「韓国・朝鮮語応用」のクラスで、最後の2回の授業は、KBSテレビの天気に関するニュースを教材に用いて総まとめとした。スクリプトに注をつけて学生に配布し、iPhoneに保存しておいたクリップを外部入力端子を使って教室のテレビに写し出した。
- 7) CDを用いる場合はDVDプレーヤーで再生すればよい。なお、再生の際に融通がきくことから、CDよりもカセットテープを好む教員もいるから、この点も考慮に入れる必要があるろう。